

## 5 815年の記録 『新撰姓氏録』

### 秦の始皇帝三世孫

『新撰姓氏録』は、平安時代初期の815年(弘仁6年)に、嵯峨天皇の命により編纂された古代氏族名鑑である。1182氏を、その出自により「皇別」・「神別」・「諸蕃」に分類し祖先を明らかにしている。氏族の改賜姓が正確かどうかを判別するために編まれたと。疑問点の多い資料である。

考証巻之十八(左京諸蕃・漢・太秦公宿禰の項)に、「ある説では、弓月君は融通王ともいい、秦始皇帝三世孫、孝武王の後裔である。孝武王の子の功満王は仲哀天皇8年に来朝、さらにその子の融通王が別名・弓月君である。応神天皇14年に来朝した。「渡来後の弓月君の民は、養蚕や織絹に

従事し、その絹織物は柔らかく「肌」のように暖かいことから波多の姓を賜ることとなった。考証巻之二十(山城国諸蕃・漢・秦弔寸の項)に、「仁徳天皇の御代に波陀姓を賜った。その末裔は登呂志公、秦酒公を賜り、雄略天皇の御代に禹都萬佐(太秦)を賜った。」とある。

后皇太后兩宮鎮魂。此夜同修焉。十一月十五日戊寅依人死穢停止此祭。故延而行之。○廿五日丁巳左京人從五位下行下野權介秦宿禰永原。從五位下守大判事兼行明法博士秦公直宗。山城國葛野郡人外從五位下行音博士秦忌寸永宗。右京人主計大允正六位上秦忌寸越雄。左京人右衛門少志。秦公直本等。男女十九人賜姓惟宗朝臣。永原等自言。秦始皇十二世孫。功満王子。融通王之苗裔也。功満占星之意。深向聖朝。化風之志。遠企日域。而新羅邀路。隔彼來王。遂使衛足之草。空宮無仰陽之心。屬天誅伐罪。官軍拂塵。通寧百廿七縣人民。響田天皇十四年歲次癸卯。是為内屬也。」是日。勅諸國史生。不任用當土之人

## 6 901年の記録 『日本三代実録』

### 功満王 融通王

『日本三代実録』は、平安時代に編纂された歴史書。六国史の第六にあたり、清和天皇、陽成天皇、光孝天皇の3代である天安2年(858)8月から仁和3年(887)8月までの30年間の記録。延喜元年(901)成立。編者は藤原時平、菅原道真、大蔵善行、三統理平。編年体、漢文、全50巻。

『日本三代実録』巻44 陽成天皇 元慶七年十二月(884年)に、「惟宗朝臣の氏姓を賜る。秦宿禰永原、秦公直宗、秦忌寸永宗、秦忌寸越雄、秦公直本らの奏上によると、功満王は秦始皇帝十二世孫」とある。(融通王は十三世孫。)

## 7 まとめ

『新撰姓氏録』『日本三代実録』の「弓月君は秦始皇帝三世孫、孝武王の後裔。融通王、功満王」は、あくまでも「ある説」である。『古語拾遺』の「絹・綿が肌膚(はだへ)に柔らかで故に秦の字を読んで之を波陀(ハダ)と言う。」も創作である。『新撰姓氏録』も、

秦(四) 秦忌寸、大秦公宿禰同祖、秦始皇帝之後也。物智王弓月王、響田天皇(諡應神)十四年來朝上表。更歸國奉二百二十七縣。狛姓歸化。并獻金銀玉帛種々寶物等。天皇嘉之。賜大和朝津間腋上地一居之焉。男真徳王、次普洞王。(古記曰、浦東君)大鷦鷯天皇(諡仁徳)御世賜姓曰波陀。今秦字之訓也。次雲師王、次武良王、普洞王男秦公酒、大泊瀬稚武天皇(諡雄略)御世。爾普洞王時秦氏摠被却略。今見在者十不存一。請遣勅使。檢括招集。天皇遣使小部雷。率大隅阿

融通王(一) 曰弓月王。響田天皇(諡應神)十四年來朝。率二百二十七縣百姓歸化。獻金銀玉帛等物。大鷦鷯天皇(諡仁徳)御世。以二百二十七縣秦民一分置諸郡。即使養蠶。織絹貢之。天皇詔曰。秦王所獻絲絹綿帛。朕服用柔軟。溫煖肌膚。賜姓波多。公秦公酒。大泊瀬幼武天皇(諡雄略)御世。絲綿絹帛。積如岳。天皇喜之。賜號曰禹都萬佐。

「肌のように暖かいことから波多の姓を賜ることとなった。」と『古語拾遺』を写している。

秦氏の故郷弓月国(クンユエ)では、ハダと発音していた。

「秦王国」は備前国上道郡幡多郷にあった。郷域は明治 22 年(1888 年)の幡多村「清水・赤田・高屋・沢田・関・山崎・円山・藤原・湊」である。

弓月国はシルクロードの北方ルート上にあった。バルハシ湖の南、イリ川付近である。中央アジアのカザフスタン内にあり、東の一部が新疆ウイグル自治区にかかっている。

伊犁(イリ)草原の別名が那拉提(ナラティ)草原である。新疆ウイグル自治区の新疆東部に位置する新疆那拉提鎮にある。「那拉提」はモンゴル語で「最も早く太陽が見えるところ」という意味である。イリ川上流に「ヤマトウ」という小さな村がある。「イリ・ナラ・ヤマトウ」に注目したい。渡来人・秦氏が自らの故郷の地名を日本に残したと考える。

## 8 参考文献

①『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』和田清 石原道博 昭和 49 年 岩波書院

② 新訂増補 国史大系第一巻上『日本書紀前篇』昭和 41 年 吉川弘文館

③『隋書倭国伝』  
<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

④『古語拾遺』平成 16 年 八木書店

⑤ 神道体系古典編『新撰姓氏録』昭和 56 年 神道体系編纂会

⑥ 新訂増補 国史大系 4『日本三代実録』昭和 41 年 吉川弘文館

⑦『ブアン仏教遺跡と熊山遺跡の比較検討』丸谷憲

二 平成 27 年 6 月 14 日

⑧『平成 26 年度 熊山遺跡群調査研究会総会シンポジウムの考察』丸谷憲二 平成 27 年 6 月 9 日

⑨『古代地名大辞典 本編』平成 11 年 角川書店

⑩『日本古代地名事典』吉田茂樹 2006 年 新人物往来社

⑪『新日本地名牽引-第一巻』1994 年 アボック出版局

⑫ 日本歴史地名体系 4『岡山県の地名』1993 年 平凡社

⑬『秦氏の研究』大和岩雄 1993 年 大和書房

⑭『岡山市の地名』平成元年 岡山市

⑮『資治通鑑』

[http://www.guoxue.com/shibu/zztj/content/zztj\\_199.htm](http://www.guoxue.com/shibu/zztj/content/zztj_199.htm)

⑯ 日本の歴史と日本人のルーツ  
<http://ameblo.jp/shimonose9m/entry-11964972396.html>

⑰【那拉提草原】新疆ウイグル自治区  
<http://study.super-chinese.com/labo/info/travel/343/>

⑱ ヤマト発見

<http://sekainonakanowatashi.blog42.fc2.com/blog-entry-42.html>

⑲『古代韓国の加耶王国と日本の吉備王国』李永植(仁済大学校歴史考古学科教授)平成 28 年 12 月